



 Data	2022-83
監督・脚本:	ポール・トーマス・アンダーソン
出演:	アラナ・ハイム/クーパー・ホフマン/ショーン・ペン/トム・ウェイツ/ブラッドリー・クーパー/ベニー・サフディ

👁️👁️ みどころ

『リコリス・ピザ』って一体ナニ？それは1970年代の南カリフォルニアにあったレコード・チェーン店の名前だ。リコリス（甘草）を噛みながら自由にレコード談義を！そんなコンセプトが大人気だったらしい。その他、あの人物も、あの話題も、あのTV番組も、あの店も、本作は“あの頃の気持ちと映画の楽しさを思い出すものばかり”らしい。

しかし、しかし……。それらは、すべてポール・トーマス・アンダーソン監督の体験に基づくもの。それを、15歳とはとても思えない大柄の俳優クーパー・ホフマンと、10歳も年上のミニスカートがよく似合う女優アラナ・ハイムが織りなす淡い初恋模様の中で次々と描いていく。

ところが、さまざまに展開されるそれらのエピソードは、私が断片的にしか知らないものばかり。これなら“昭和はよかった”をテーマにする日本の歌番組を観ている方がよかったかも……。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■あの天才の最新作は？3部門候補！キネ旬も超高評価！■□■

本作は、『マグノリア』（99年）、『ザ・マスター』（12年）（『シネマ30』213頁）等の名作で有名なポール・トーマス・アンダーソン監督の最新作。第74回アカデミー賞で作品賞、監督賞、脚本賞にノミネートされた名作だ。しかし、「リコリス・ピザ」って一体ナニ？また、チラシに写る2人の若き主人公の名前と顔もわからない。出演陣には、ショーン・ペンやブラッドリー・クーパー等の著名俳優の名前もあるから、当然それなりのものだろう。そう思って、『キネマ旬報』7月下旬号の「REVIEW 日本映画&外国映画」を見ると、星5つ、5つ、4つと絶賛されているから、これは必見！

チラシに、「誰もが“あの頃の気持ち”と“映画の楽しさ”を思い出す！」とあるとおり、

本作は、1970年代のアメリカを舞台とした、15歳の少年ゲイリー（クーバー・ホフマン）と10歳年上の女性アラナ（アラナ・ハイム）との初恋模様をテーマにしたもの。したがって、73歳の私が今更そんな映画を観ても……。そう思いつつ、新聞紙評を含む本作の評論のあまりの良さに惹かれて、映画館に行くことに。

■□■「リコリス・ピザ」とは？音楽は？TV番組や映画は？■□■

「リコリス・ピザ」とは、1970年代に南カリフォルニアで人気のあったレコード・チェーン店の名前。パンフレットにある、村尾泰郎氏（音楽／映画ライター）の「リコリスの味がする青春のプレイリスト」によれば、リコリス・ピザの店は開放的な雰囲気に満ちていて、客には店名にちなんでリコリス（甘草）が無料で振る舞われ、店内にあるソファに座ってレコードを自由に試聴したり、店員と音楽について語り合ったらしい。したがって、カリフォルニアで生まれ育ったアンダーソン監督にとっては、そんな「リコリス・ピザ」は70年代のカリフォルニアを象徴する店、というわけだ。

また、本作に流れる計38曲もの楽曲は、1986年に姿を消したリコリス・ピザの甘酸っぱい記憶を受け継ぐかのように、アンダーソン監督がリコリスを噛みながら聴いた70年代の青春のプレイリストらしい。なるほど、なるほど。

■□■本作の主人公は？テーマは1970年代の体験談！■□■

本作のゲイリー役で主演したクーバー・ホフマンは、2014年2月2日に死去した名優フィリップ・シーモア・ホフマンの息子。父親譲りの小太りの体型からして15歳の役はちょっとやりすぎだが、演技力はさすがだ。他方、1970年代に一世を風靡したミニスカート姿で登場するため、スラリとした綺麗な足が一貫して目立つ、アラナ役のアラナ・ハイムも、三姉妹のバンド、ハイムの三女だそうだが、残念ながら私は全然知らない。

本作の主人公ゲイリー・ヴァレンタインは、実在の人物で、そのモデルはアンダーソン監督の親友ゲイリー・ゴーツマン。したがって、本作に見る彼の少年時代に起きたアラナとの恋物語や、本作に見るウォーターベッド販売店やピンボール開店等の物語は、すべてアンダーソン監督が彼から聞き取った体験談らしい。なるほど、なるほど。しかし、それらアンダーソン監督の1970年代の多くの体験は、日本人の私には全然わからない。その他、本作は面白く作られているものの、そのストーリーはすべてアンダーソン監督の“私的体験”にもとづくものであるため、私には程遠いものばかりだ。近時の私は、BSテレビで放映されている「昭和はよかった」系の番組を楽しくかつ懐かしく観ているが、それに比べると、本作にはかなりの違和感も……。

■□■なぜこんな俳優が？なぜこんなエピソードが？■□■

ショーン・ペンには『ミスティック・リバー』（03年）（『シネマ4』251頁）、『ミルク』（08年）（『シネマ22』42頁）等で有名な俳優。そんな彼が、本作ではジャック・ホールデン役で登場するが、これは私も知っているウィリアム・ホールデンがモデルらしい。また、アラナを見たジャックは「グレースを思い出す」と語り、ティーン・エイジャーの

アラナではとても入れないような大人の世界にアラナを誘っていくが、そこでの“グレース”って一体誰？これは、女優からモナコ王女になった超美人女優、グレース・ケリーのことだ。

したがって、それらがわからなければ、本作のストーリー展開の面白さについていけないのは当然だ。ところが、本作はそんな日本人にはわからないエピソードばかり。本作にはもう1人、『アリー／スター誕生』（18年）（『シネマ43』40頁）や、『ナイトメア・アリー』（21年）（『シネマ50』31頁）等で有名な俳優、ブラッドリー・クーパーが最初にウォーターベッドを注文する映画プロデューサー、ジョン・ピーターズ役で出演しているが、このストーリーもわかったようでわからないものだ。さらに、本作に登場するテレビ番組や映画、地名や料理等々も、1970年代を生きたアメリカ人なら誰でも知っているエピソードばかりだが、私には基本的にチンプンカンプン。それでは、本作を「あの頃の気持ちと映画の楽しさを思い出しながら楽しめ」と言われても、所詮無理な話だが・・・。

■□■15歳の子役の事業欲は？25歳のアラナの選択は？■□■

本作は、1970年代にポール・トーマス・アンダーソン監督が体験した色々なエピソードを交えながら、15歳の子役の男の子ゲイリーと、25歳のカメラマン・アシスタントであるアラナとの出会いから始まる恋物語を描いていくもの。しかし、その恋物語は15歳であるにもかかわらず、子役の傍ら、ウォーターベッドの販売を思いついて実行に移し、成功させていくからビックリ！さらに、ピンボール店第1号の開店も実行するからこれにもビックリ！これらのエピソードは監督の作り話ではなく、ゲイリーのモデルとなったゲイリー・ゴーツマンが実際にやってきたことらしいから、本来は説得力十分なはずだ。

他方、ゲイリーとの最初の出会いは10歳の“年上感”が目立っていたアラナだが、ゲイリーのTV付き添い役をやったり、ウォーターベッド販売を手伝うようになると、微妙に2人の力関係が変わっていくから、それに注目！しかし、有名な映画俳優ジャック・ホールデンとの物語や、ウォーターベッドを注文した映画プロデューサー、ジョン・ピーターズとの物語を2人で体験する中、2人とも少しずつ成長していったのも当然だ。

しかして、アラナはカリフォルニアの市長選挙に出馬しているジョエル・ワックス（ベニー・サフディ）の選挙活動のボランティアを始めたが、その選択の是非は？他方、ジョエルの事務所に入出入りするうちに、禁止されていたピンボールがまもなく解禁されることを知ったゲイリーは、ピンボール第1号店を開くというアイデアを思いつき、実行。ところが、そこで「この街を変えようという立派な人として、聞いたのはピンボールのことだけ？」「僕がいなければ君はまだ生徒の写真を撮ってた」と2人の口論が勃発することに。さあ、2人の恋物語の展開は如何に？

■□■15歳の男と25歳の女の恋物語の結末は？■□■

若きロミオと若きジュリエットの恋物語は悲痛な結末を迎えたが、そんな結末はシェイクスピアが一世一代の悲恋物語を完成したさせようとしたためだ。したがって、ゲイリー

とアラナのような1970年代を生きた普通の(?)男女の恋物語については、それと同じような“あっと驚く展開”や“悲劇的な結末”は不要。しかし、ポール・トーマス・アンダーソン監督は、これも実話かどうかは知らないが、市長選挙の結果が出る前のジョエル候補のスキャンダルめいた物語にアラナが巻き込まれていくストーリーで、本作を締めくくっていくので、それに注目!

そのスキャンダルとは、ジョエルとジョエルの恋人だというマシューという男が2人で食事している席に、アラナが呼び出されること。それは一体なぜなのかは、あなたの目で確かめてもらいたい。その後の展開を見ていくと、「彼氏はある?」「クソ野郎か?」と聞かれたアラナが「ええ!」と答える姿に納得できる。1970年代のアメリカは実にいい時代だったが、たしかにアラナの彼氏になりそうな男は、ゲイリーを含めてみんなクソばかり・・・?かどうかもあなたの目でしっかり確認してもらいたい。もっとも、何度も繰り返す通り、本作のエピソードについては知らないことばかりだから、その判定は難しい。

2022(令和4)年7月13日記